

2018年5月28日

マツダ、国内生産累計 5,000 万台を達成

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、本年5月15日に、国内生産累計台数が5,000万台を達成したことを本日発表しました。それにともない本日、防府工場で、小飼雅道(こがい まさみち)代表取締役社長兼 CEO をはじめ、役員、労働組合関係者らが出席する記念セレモニーを実施しました。国内生産累計5,000万台達成は、1931年10月に三輪トラックの生産を開始して以来、86年7ヵ月での達成となります。

セレモニーで小飼社長は、「今から86年前に自動車を造りはじめ、この度国内生産累計5,000万台を達成しました。年間で約100万台を生産しても50年を要する計算となり、いかに長い歴史を積み重ねてきたかを示しています。今後もマツダは、さまざまな取り組みを通じて、強固なブランドの構築を図っていきます。また、防府と広島の本工場は進化を続け、技術・技能を海外の工場に速やかに展開するマザー工場としての役割を果たしてまいります。日本のモノづくりが誇る技術力を体現する生産拠点として、これからも皆さんと共に取り組んでまいります」と述べました。

マツダは1931年に広島で三輪トラックの生産を開始し、その自動車生産の歴史に幕を開けました。その後、1960年に軽自動車「マツダ R360 クーペ」の生産を開始し、乗用車市場に本格参入しました。1982年には山口県防府市の防府工場における車両生産が始まり、以降国内では広島の本社工場と防府工場の2拠点を生産を行っています。その中で培ってきた生産技術とフレキシブルな生産体制は、マツダのビジネス成長を下支えしてきました。これらの国内工場は、複数の車種を同じラインで生産できる「混流生産」を行っており、これによりマツダのビジネス規模に適した「多品種少量生産」を実現し、商品競争力・多様性と量産効率を両立することを可能にしています。また、2016年から2017年にかけてクロスオーバー系車種の生産フレキシビリティを強化し、近年の需要動向の変化によりスピーディーに対応できる体制を整えました。さらに、国内工場で確立した生産技術は海外工場にも順次展開され、グローバル全体でマツダのクルマ造りをリードしています。

マツダは、中期経営計画「構造改革ステージ2」(2017年3月期～2019年3月期)の最終年である今年度の販売台数目標を166万台とし、2024年3月期はグローバル全体で200万台の生産・販売体制の構築を目指す計画です。また、次世代技術と次世代デザインを採用した商品の量産を2019年に開始する予定であり、お客さまにタイムリーな商品提供ができるよう、今後も生産体制のさらなる拡充を継続して進めます。

これからもマツダは、「地球」、「社会」、「人」とクルマが共存する世界の実現を目指し、高品質なクルマづくりをはじめとする、お客さまとの様々な接点を通じて、お客さまの人生をより豊かにし、お客さまとの間に特別な絆を持ったブランドになることを目指してまいります。

以上